慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	マルクス主義の社会階級論 (一)
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.11 (1922. 11) ,p.1555(55)- 1563(63)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221101-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

宮内省御用達

東洋軒主 伊藤耕之進

○東洋軒本店　高輪二、八七〇
○新橋驛樓上　東洋軒支店　同二、八七一
○日本橋呼村井ビルデング地下室　同二、八二二
○東洋軒支店　銀座二、七二八
○有樂座内　東洋軒支店　電話本局二、五五四
○帝國劇場内　東洋軒出張店　同二、四八四
○生命保險會社協會地下室　丸ノ内一、二七三
○日本橋濱町　東洋軒支店　丸ノ内一、一二九
○赤坂溜池　錦水　濱町一、六一三
○京橋區傳馬町第一相互館七階　錦水　芝五三〇三一
東洋軒　京橋一、九八二

雜錄

マルクス主義の社會階級論（一）

加田哲二

一

マルクス主義は屢々階級的學說であると云はれてゐる。フランツ・オッペンハイマアはその「マルクス社會學の原理」Franz Oppenheimer, Das Grundgesetz der marxschen Gesellschaftslehre の結論の中で次のやうに云つてゐる「マルクスが當時の階級鬪爭の狀態が甚だ必要としてゐた階級的學說をプロレタリアートに供給したことは、彼の歷史的效績であると共に、彼の偉大な影響の原因でもあり、彼の體系の內部的弱點の原因でもある。マルクスがその天才を以てこれらのプロレタリアの階級學說を打ち立てたことによつてのみ、その巨大な影響は存する。このことによつてのみ、彼は全世界の階級意識のあるプロレタリアートの神的指導者となつた。このことによつてのみ、彼の資本論はプロレタリアの聖典となつたのである。（このことはマルクシステンの反對の意見があるにも拘らず、民衆に對する影響の原因ではなくして、障害となつたものと自分は信ずる。）」(Ss. 146-147) マルキシズムの批評家ウラジミール・シンコウィチもまた云ふ「全體としてのマルキシズムは一の階級的敎義即ちプロレタリアートの敎義である」と。(Simkhovitch. Marxism versus Socialism, p. 186) このことはマルクス批評家によつてのみ主張されるのではない。自ら純正なマルキシストの名

乘るものにおいても發見することが出來る。今その一例としてローザ・ルクセンブルヒ女史を擧げる。曰く「階級闘爭の見地から見て、その理論的の問題は次の如くである。餘剩價値の起源、即ち奪掠の科學的說明、並に生產方法の社會化への傾向、即ち社會革命の客觀的基礎の科學的說明がこれである。これらの問題は資本論第一卷の中で答へられてゐる。そは「收奪者の收奪」を以て、餘剩價値の生產並に資本の加增的集積の必然的結果であると推理した。勞働運動の理論的必要は大體において、これによつて充たされたのである。」Rosa Luxemburg, Stilstand and Fortschritt in Marxismus, in Vorwärts, Marz. 14, 1903. Cited by. Simkhovitch. p. 187)

私はマルクス主義は一の階級的敎義であるから、それだけ價値の少ないものであると云ふ意味において、以上の引用を敢えてしたのではない。マルクス主義が階級的敎義と云はれる一半の理由はそが嚴密に階級の本質と諸階級間の闘爭の事實を認識したことにあるだらう。この點においてマルクス主義は自餘の社會學說に就いて數歩を抽んでてゐると云ふことが出來ると思ふ。私の本論において目的とするところは、階級の本質、階級間の社會的現象に就て如何なる考へをマルクス主義者が懷いてゐたかを解說しやうとするにある。

二

マルクスが社會關係を經濟的と見たことは周知の事實である。彼の「經濟學批判」の序文はこのことに對する顯著な宣明である。今他の場合について彼の經濟的社會觀の一例を、「賃銀勞働と資本」Lohnarbeit und Kapital. Separat-Abdruck aus der Nuen Rheinischen Zeitung von abre 1849 から擧げる。その中にマルクスは去つてゐる。「生產において人は自然に對して作用するのみならず、人間相互に作用する。彼等はある方法において協働し、また相互にその行爲を交換することによつてのみ生產する。生產するためには、彼等は相互に一定の關係と條件とに入る。さうしてこれらの社會的關係の範圍においてのみ、彼等は自然に作用し、生產は可能となる。生產者間のこれらの社會的關係並に彼等がその行爲を交換し、生產の集合的行動に參加する條件は、生產手段の性質に從つて自然的に異る。……個人がその內において生產する社會的關係、即ち社會的生產關係は物質的の生產手段即ち生產力の變化と發展に從つて變化する。生產關係の全體が吾々の所謂社會關係即社會を構成する。特定の歷史的發展階級における社會、特定的の性質を有する社會を形成する。」(Kautsky's Ausgabe. S. 25. F. Baldwin's English Translation. pp. 18-19) マルクスはかくの如き經濟的社會觀から出發して社會階級の本質を決定しやうとする。社會は以上の如く人類の欲望充足のための活動の全體であるが、その社會的の全體の經營の內部において相互に同一な關係を結び、且つ經濟行爲の同一の範疇に屬する個人並に團體が存するが、これが一の階級を形成するものである。(Die Marxsche Geschichts-, Gesellschafts- und Staattheorie, Grundzüge der Marxschen Soziologie von Heinrich Cunow. II. Band. Ss. 52-53)

マルクス主義の階級區別の標準は財產の大小、所得の高低、もしくは職業別によるのではない。その標準は經濟行爲の種類、並にそれによつて決定せられる社會成員間の地位である。マルクスの資本論第三卷の原稿は社會階級論の序論に終つてゐるが、そこではマルクスは現代の「市

民的」即ち資本制社會における社會階級を三つに分けてゐる。（一）土地所有者並に地代の享有者としての地主、（二）資本利潤獲得のために他人の勞働力の利用者として、一方には資本家、他方においては、投資家並に金貸、（三）賃銀に對してその勞働力の賣手としての勞働者がこれである。(Das Kapital. III. 2. 52 Kapital. Die Klasse)これらの階級は社會的生産の過程において多くの下位階級に分たれる。例へば地主はその取得する地代によつて生活することも出來るし、また獨立の經濟を營む大小農となることも得る。これと同じやうに資本家は例へば金融業者にも、銀行家にも、大工業家にも、大商人にも、船舶所有者にも、小賣商にもなり得る。この外にまた中間的地位を占める中間階級が存する。マルクス並にエルグルスはその政治的現象を論じた諸著において、以上の三大階級の外にその下位に來る階級並に傍系の階級を論じてゐる。例へばエングルスは彼の「獨逸農民戰爭」Der deutsche Bauernkrieg. の序文の中で農民階級を別つて二つとしてゐる。(3. Auflage S. 22 ff.) 即ちエングルスがプルジョアジーとして數へてゐる大農並に獨立の經濟を行つてゐる小農がそれである。それと同樣に彼れは工業的都市勞働者の階級と田園的農業日傭勞銀勞働者の階級とを分つてゐる。(Cunow. A. a. O. S. 53)

カアル・マルクスは一八四八年の革命當時における獨逸の社會狀態を描いて、New York Tribune へ寄書をしてゐるが、その中に當時の獨逸における階級狀態を可成に詳細に描いてゐる。一八五一年九月にロンドンにおいて英文で執筆せられ、十月二十五日の同紙に載つた一論文 "Germany at the Outbreak of the Revolution" がこれである。(この論文はその連續の諸論文と共にマルクスの娘エリアノル・マルクス・エヴェリングによつて編輯せられ、Revolution and Counter-Revolution or Germany in 1848 として出版されてゐる。今引用は Social Science Series 中の一書として出版されたものに依る。)

「封建的所有制度の殆んど到るところで行はれてゐた」(p. 4) 當時においては封建貴族は甚だ勢力があつた。これに反して「獨逸のブルジョアジーは佛蘭西または英國のブルジョアジー程富んでもゐないし、集中もされてゐなかつた。」(p. 4) さうして國民の大多數は貴族にも、ブルジョアジーにも屬してゐないで、都市においては小商人階級と勞働者であり、地方においては農夫であつた。(p. 7) さうして農民階級は尙ほ幾多の小階級から成立してゐるのである。マルクスはこのことに就いて次のやうに云ふてゐる。

「最後に小農と極小農との大階級がある。これの階級は、農業勞働者を加へて全國民の大多數を形成する。乍然、この階級はまた種々の小部分に細分せられる。第一に、富裕な農業者、獨逸において大農並に中農 Gross und Mittel-Bauern と呼ばるゝものである。彼等は多少共廣大な農場の所有者で、各々數人の農業勞働者の勤勞を用ゐてゐる。この階級は租稅賦課を免れてゐる大封建的地主と小農勞働者との中間に位してゐる。彼等が都會の反封建的中產階級と同盟を結ぶことはその最も自然的な政治的經過として明かに理由がある。第二に、佛蘭西大革命の巨大な打擊によつて封建主義が征服せられたライン地方を支配してゐる小世襲地主 Small free holders がある。これと同等の獨立小世襲地主が以前その土地に存在した封建的諸義務を買收するのに成功

した諸州には存在する。乍然、この階級は單に名目上においてのみ世襲地主の階級である。彼等の財産は一般に擔保に入れられてゐて、その條件が非常に苛重なので、小農でなく、金を貸出した金貸業者が眞の地主である有樣である。第三に封建的小作人である。彼等は容易に借地から離れることが出來ないし、彼等は永久の地代を支拂ふか、マナアの領主のために永久に一定量の勞働に從事しなければならない。最後に農業勞働者であるが、彼等の狀態は、多くの大農場においては、英國の同階級と同一で、彼等は貧窮の間にその生を送り、その雇主の奴隷である。農業的人口の最後の三階級即ち小世襲地主、封建的小作人、農業勞働者は、革命以前においては政治にその頭腦を費すことがなかつた。けれどもこの事件は彼等に對して、輝々たる前途ある新發展の過程を彼等の前に展開したのである。彼等のすべてに對して革命は利益を提供した。さうして運動が一度巧みに行はれれば、各人がその運動に參加することが期待し得る。乍然、同時に次のことは明白であり、近代諸國の歷史によつて等しく確證されたことである。農業的人口は、廣大な地積に散在し、その各部分の間における一致を齎らすことの困難の結果として、嘗て成功した獨立運動を企圖することは出來なかつた。彼等は一層集中され、一層敎養のある、さうして一層感動的の都會人士の創意的の衝動を必要とする。」(pp. 10-11.)

この引用文によつて表はれてゐるやうに、マルクスは當時の獨逸における社會階級を分つて封建貴族、ブルジョアジー、小商人、勞働者、農夫に分つてゐるが、この農業從事者を更らに分つて大農並に中農、小世襲地主、封建的小作人、農業勞働者に分つたのである。

マルクスはまたその著 Der achtzehnte Brumaire des Louis Bonaparte (4. Aufl. S. 40)の中で小市民を一の特殊的階級、ブルジョアジーからの「過渡的階級」としてゐる。然るに第五十頁においては、全市民を以て、再びブルジョアジーと解してゐる。さうして「佛蘭西における階級闘爭」Klassenkämpfe in Frankreich 1848/50 においては、大小ブルジョアジーの分類を繰り返し、大ブルジョアジーを金融的ブルジョアジーと工業的ブルジョアジーとに分つてゐる。更らに一八七十年の佛蘭西における內亂に就いての國際勞働者協會總會における講演——Der Bürgerkrieg in Frankreich ——においては、小ブルジョアジーを英語の用例に從つて、中產階級と稱し、小商人、手工業者を意味するものとした。(Cunow, A. a. O. S. 54)

マルクスが資本論第三卷第二册の最終の章で現代資本制社會の階級を地主、資本家、勞働者に分つたとは既に述べた。彼はその三階級間に中間的、過渡的の階段の存することを說いて「何が階級を構成するか」の問題を起してゐるが、マルクスはこの自問に對して答へる處がなかつたのである。彼はこれに續く文章においてたゞ職業が階級と看做さるべきではないと云つたに過ぎない。醫師、辯護士、藝術家等の職業は、それ自體では一の特殊階級を形成するものではないと同じやうに、社會的分勞の結果成立した利益並に所有範疇も階級を形成するものではない。故に鑛山所有者、葡萄園の所有者、森林所有者も、石工も大工も纖維工業勞働者も煙草製造勞働者もそれ自體階級ではない。何故に然るか。マルクスはこれに對して何事も云はない。

たゞ前述の定義から推すと職業並に所有の區別は階級別の標準とはならない。また經濟的過程の內部において種々な相互關係による地主を有してゐる勞働者の團體また特殊な所有を取つて見ても、それは階級を構成しない。煙草製造勞働者も纖維工業勞働者も同じ經濟的條件の下に、賃銀に對してその勞働を賣り、同じ方法（同じ程度ではないにしても）で餘剩勞働を施行する。企業者團（產業的、商業的並に金融的資本主義）土地所有者に對する彼等の生產的行動から起る階級的地位は同一である。彼等は、これによると同一の利益と對抗とを持つてゐる。

資本家に就いてもこれは同樣である。彼が鑛山、炭坑、煉瓦、煙草製造にその資本を放下してゐても資本家たる地位に就いては同一である。然るに工業家、商品を賣買する商人、貨幣並に兩換によつて生活してゐる銀行家は同一の資本家ではあるが、資本制的經營の內部においては、種々の經濟的機能並に相互關係に基づく異つた地位を持つてゐる。故に資本家階級中の下位の階級として工業家、商業家、金融家を區別することは正しい。工業家は他人の勞働力を購入して、ある商品の生產のための經營にこれを利用し、さうして生產された餘剩價值の中から企業利潤としての彼の配分を取得する。金融家は利子を得てこれに對して資金を融通する。この兩者共資本家であつて、社會的生產過程において生產された餘剩價值からその所得を得る。乍然、この過程における彼等の經濟的機能は異れる種類のもので、資本制的經濟の內部において異れる活動方面を有してゐる。故に彼等の間には利害の不一致が時としてあり得るのである。

階級區別の標準として職業が用をなさないやうに資產の大小、所得の大小もまた用をなさない。人はよく云ふ。ある農民または手工業者の收入並に生活關係はよい地位の工業勞働者よりも高くはない。故に彼等は勞働者階級に屬すべきものであると。また云ふ。小商人の營業の何ものも彼に屬してゐない。彼は負債を負つて働いてゐるに過ぎない。だから彼もまた勞働者であると。マルクス主義の階級學說はかくの如きことを主張しないのである。かくの如き主張は財產の大小と所得の高低を以て階級別の標準とした舊學說への復歸に別ならない。獨立の農民は高給の勞働者以下の收入を有するが故に賃銀勞働者ではない。彼は資本家に對して何等の賃銀關係を結んでゐない。餘剩勞働も利潤をも生產してゐないのである。これと同樣に落魄した貴族または官吏は彼の收入が通常の勞働者の收入以下に下るからと云つて決して賃銀勞働者でははないのである。要するにマルクス主義においては職業別財產の差異、所得の高低を以て階級別の標準とはしない。マルキシズムに從へば階級は經濟的發達の過程における產物で、當時の經濟組織から發生する共同利害の所產である。然らば、階級は如何にして發達したか。これが次の問題である。（Cunow. A. a. O. Ss. 55-56）

（未完）

エンゲルスのロオドベルトス批評（二、完）

小泉信三

ロオドベルトスは謂ふ。

第二の條件に就て云ふと、券面に證明せられてゐる價值が實際に交易上に存在するやうにする